

22 8. 15

現論

けんろん

教育のデジタル化に疑問

小中学校の教室の風景が、遠からず全く違ったものになる日がくるだろう。教師は電子黒板で授業をし、子どもたちは電子読書器「iPad」や「タブレット」のような手元の電子機器を見つめ、電子ペンで書きこみをする。

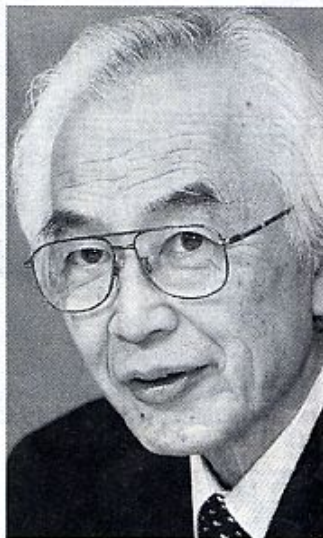
論理の飛躍

遠からずと書いたのは、政治・行政に影響力を持つソフトバンク社長の孫正義氏が「2015年以内にやらなきゃいけない」とごち上げたからだ。7月27日、孫氏やマイクロソフト社長の樋口泰行氏ら業界主導で学者らも集めた「デジタル教科書教材協議会」の設立シンポジウムにおける講演だ。

デジタル教科書とは、教科書も副読本などの教材もテキストの問題も、すべて見ることでできる小型映像端末のこと。動画も見られる。もう教科書はいらない。ここでその機器を仮に「ePad」と名付けよう。

教師はePadと同じ画面を電子黒板に映し出して授業をし、ePad上に問題を出

す。教師はePadと同じ画面を電子黒板に映し出して授業をし、ePad上に問題を出



36年栃木県生まれ。東大経済学部卒。NHK記者を経て作家活動に。災害、事故、科学、医療問題などをテーマに執筆。著書は「マッハの恐怖」「新・がん50人の勇気」など多数。

心が育つ。日本の国際競争力増大、という図式には論理的に飛躍があり過ぎる。

パソコンなどのない時代に育った私の「分析能力」をすくなくに刺激したのは、全小中学生にePadを持たせることが企業にもたらす収益効果の側面だ。全国の小中学生は約1千万人。教師用や高校、大学への波及効果を含めると、マーケット人口は教育界だけでも2千万人を超える。ePadの値段を仮に1台2万円とすると、4千億円のマーケットが創出される。急ぎたいわけだ。教育の公共事業化とさえ言える。

ゲーム感覚

孫氏と言えば、08年に児童生徒がケータイで不良サイトにアクセスするのを禁じるために、政府がメーカーにフィルタリング機能を付けるのを義務づけようとした時、国会審議の参考人として、「ケータイの規制は」包丁が危険だからといって台所からなくすようなものだ」という趣旨の理屈にならない理屈を述べて大反対した人物だ。それでも影響力を持つのは、成功者の

人格形成にゆがみ生じる

学巻き込みの活動だ。民主党政権の原口一博総務相は、すでに昨年末、学校教育のデジタル化構想を発表し、今回の協議会発足の席でも孫氏の構想に賛意を語った。新成長戦略にも合う。この調子だと、「議論より実験」という孫提言にそって、教育のデジタル化は本当に5年で進められる可能性が高い。

それでもなくても、子どもたちはケータイ、ゲーム、パソコンという電子機器とばかり接して、生身で親子や友達同士と一緒に過ごして、人間関係を築いたり相手への思いやりの感性を身につけたりする機会が少なくなっている。結果、人格形成にゆがみのある子が増えている。

7月27日、秋葉原無差別殺傷事件の加藤智大被告が東京地裁の本人質問で、暴走した理由について、ネットばかりに依存する生活をしてきたことや、自分を言葉で表現するのが不得手で怒りを粗暴な行動で示す傾向があったことなどを、反省をこめて語っていた。ついに学校でまで、かけがえのない人間形成期の子どもたちが多くの時間を電子機器とばかり向き合う時代になった時、ゲーム感覚そのままだに自己中心で勝ち抜くことばかりを考える人間を生み出すことにならないか、今こそ教育現場で議論すべきだ。(ノンフィクション作家)

柳田 邦男氏